

福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとなむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。
撮影/川上信也

春の訪れに心がおどる季節。 陽気に誘われて、ぶらりぶらりとたゆたう。



『日本ぶらりぶらり』
山下清/ちくま文庫/
714円(税込)



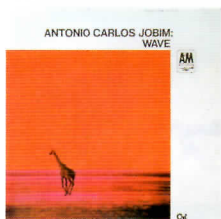
山下清といえば、TVドラマの、裸の大将シリーズで皆さんもご存知だと思います。でも、彼の本を手にとったことのある方は意外と少ないのではないのでしょうか。12歳の時に千葉県の養護施設に入所したものの、たびたび施設を脱出しては各地を放浪し、また戻って旅の記憶をたどりながら作品を制作する…という生活を長い間繰り返していた、文字通り放浪の画家です。

『日本ぶらりぶらり』は、彼が気の向くままに旅をしながら描いた文章とスケッチで綴られた放浪記。独特のとぼけた文章はとてもチャーミングで、子どもの頃のままのピュアな感性にあふれている一方、絵画作品の完成度の高さには目を見張るものがあります。アウトサイダーアートのはしりとして、晩年はヨーロッパでも展覧会を開いたほど、その才能は国外でも広く評価されていたようです。

作品のことはさておき、私は毎年春

『WAVE』

アントニオ・カルロス・
ジョビン/ユニバーサル
クラシックス&ジャズ/
1,800円(税込)



になると、この本のページをつらつらめくのが大好きです。春の陽気に誘われて、どこかへぶらりと旅に出ているような心地いい気分になんかしてくれる大切な一冊。九州の話もたくさんあり、挿絵も多いので、老若男女を問わず楽しく読めるのではないのでしょうか。

さて、今回は、春にたゆたう、というテーマですが、音楽のアルバムはアントニオ・カルロス・ジョビンの『WAVE』を選びました。波間を漂うようなふわふわとしたサウンドは、まさに究極のラウンジ・ミュージック。イーजीリスニングとして聞き流すにはあまりにも奥が深い、すばらしい音楽です。ジョビンは11年前の春、本屋をオープンした当時、店で頻繁にかけられていたBGMだったこともあり、なおさら思い出深いアーティストのひとり。飾り気のない素朴な本と、洗練された音楽。対極にある二つの作品ですが、どちらもこの季節にぴったりです。